

# 当たる!

広報クイズ①⑥

## 応募の方法は...

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○あて先 〒950-112 白根市

根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係  
○締め切り 七月二十日(金) 必着のこと  
○抽選 七月二十一日(土)に市役所に来られた人に抽選していただきます  
○発表 八月一日号

## 今月の問題は...

①六月一日から一般利用が開始されたカルチャーセンター。個人で利用する場合の利用料金は一回いくら?  
A 五十円  
B 百円  
C 二百円  
(ヒント①五ページ)

②風合戦が迫力ある映像で体験できる立体ビデオを製作。この立体ビデオが上映されるのは?  
A 白根ふるさと館  
(ヒント①八ページ)

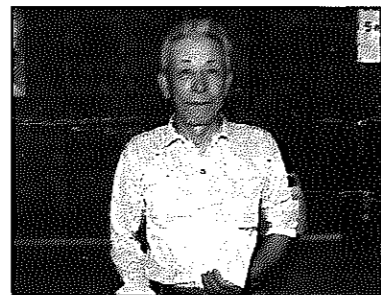
B カルチャーセンター  
C 民俗資料館  
(ヒント①五ページ)

③新成人に対するアンケート。どんなときに生きがいを感じますかという問いで最も多かった答えは?  
A 恋人といるとき  
B 友達といるとき  
C 趣味やスポーツをやっているとき  
(ヒント①八ページ)

## 当選おめでとう!

### [500円の図書券]

- ▶丸山泰介さん (下木山・1歳)
  - ▶斉藤 香さん (大字七軒・17歳)
  - ▶梅田佐智子さん (七軒町・13歳)
  - ▶田村秀夫さん (七軒・34歳)
  - ▶関根勝彦さん (茨曾根・29歳)
- [県立自然科学館招待券]
- ▶大関良美さん (茨曾根・9歳)
  - ▶五十嵐恵美さん (茨曾根・11歳)
  - ▶笠原寿子さん (茨曾根・13歳)



6月21日に市役所に来られた青木喜一郎さん(中鷲ノ木)に抽選していただきました。先月号の正解は①A②B③Cでした。応募総数は33通で、そのうち正解は29通でした。

## 俳句

苗売りの話上手にまた駒む  
振って買ふ土産の鈴や春の風  
代わいて我が影写り星写り  
村走るあらぬ噂や山笑ふ  
いつも買う米屋の軒に燕来る  
川渡る蝶にも道のある如し  
田植機の見守る畦の人  
大風と書かれしチラシ届きけり  
祝ひごと重なり牡丹咲きにけり  
灰白き夜明の藤や庫裏の裏  
雨あがりルビーの如き梅の露  
川柳

五十嵐寛吾  
内山 京子  
安沢 飛浪  
猪股 南魚  
古川 綾  
堀内ナナ子  
細貝 漢子  
小林 すみ  
小林 光子  
豊木サグ子  
(以上大風会)  
波辺 勤  
玉木 長吉

## 川柳

また葉忘れています回復期  
天の慈悲地の慈悲受けている青田  
ほほずりを孫が嫌がる無精髭  
余命の水くれる旅行にまた出かけ  
木漏れ日に神はおわすか山の径  
よたよたになっても腰を鳴られる  
徳シヨンの風は吹かない裏通り  
保健会集まる顔は小麦色  
姐の鯉が睨んだ出刃の錆  
一人旅心にけじめつけたくて  
ほんとかなガマの油のその効き目  
嫁不足知らず乱舞の蝶トンボ  
儉約家ケチも美德と義理を欠き  
十の指十の音符で喋る手話  
日本語がやがてハワイを乗っ取る気  
昭和史を生きて六十路の坂を越え  
酒蔵に残した杜氏の国訛り  
少女期の肌がほんのり人を恋う

高橋祐四雄  
竹石 甚五  
田中 成子  
田村 恒夫  
時田 良子  
中村 尚治  
西条 ムラ  
早川 英男  
山岡 フミ  
本間 雪江  
吉川 彰  
米野 光雄  
荒木 イマ  
今井 七郎  
織田 セツ

## 短歌

市制三十祝う白根の空晴れて  
文化の殿堂田園に建つ  
たらねの母逝きませし年となり  
胸に合掌吾は生きなむ  
正しくも正しからざる今の世に  
正しく生きる日びのくるしき

中村 京  
小出 上しの  
小出 熊四郎

# 市民談話室

## 原稿募集

8月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111) (F)333) です。



## バスの中の出来事

半間伊作さん (古川田地・無職・七十八歳)

所用のため、街へ行くバスに乗った。停留所で五、六人の学生が降りた。よく見たら髪を黄色に染め、長過ぎるスカートをはいた女子学生と、ポケットを半分くらいにした上着とだぶだぶズボンをはいた男子学生が交じっていた。これらをカッコイイとか、現代的服装とかいう人もいるが、私は昔風の質素軽快剛健型の学生らしい姿が好きである。健全な精神は健全な姿勢

に宿る。諸君は日本の将来を背負って立つ若者なのだ。まず姿勢を整え、勉強に運動に頑張っしてほしい。  
次にあちゃんたちが二、三人談笑していた。毎日数カ所の医院に通院しているらしい。その中の一人が、このままだと病更しと言っている。変更の出来るような病状らしい。昨今、医療費(特に老人医療)が問題になっているが、私もその一人として医療保



## 病気を乗り越えて

野口敏子さん (瀬ヶ通・主婦・三十三歳)

昨年末、突然具合が悪くなって閉居生活を送りました。何がなんだか分からず、部分的に記憶も途切れ、苦しい毎日が続きました。病院での一日一日がとても長く、つらく感じられました。子供の顔を思い浮かべては頑張れ頑張れと自分自身に言い聞かせても、なかなか立ち直れず、落ち込んだ気分がいつぱいでした。

そんな絶望の日々に私の心を支えてくれたのは家族でした。どんなときでも私を温かく見守ってくれた主人、両親。お互いに助け合って生きること、みんなが元気で普通の暮らしができること、これほどの幸福はなかったのだと、健康と自由を失ってからのつくづく思いました。「長い人生のほんの一時だ。またきつといいこともあるさ」と主人は言ってくれました。だれも一人では生きられない。せつなかつたけれども、家族とともに困難を乗り越えて、授かった命の限り、心をこめて生きようと思えました。



## 私の思い出

青春時代

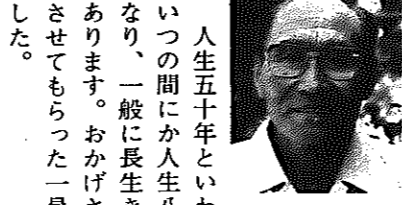
羽佐田トクさん (庄瀬五・無職・七十三歳)

私は大正六年に生まれ、二十二歳まで農家で働きました。昭和七、八年ころ、耕地整理が始まったころだと思えます。私は秋の農繁期が終わると友達を誘い、小遣い取りに出かけました。その当時、女たちは「かごべい」という、土や砂利を入れる小さなかごを背負い、朝早くから夜遅くまで、雨の日も風の日も休まず働き続けました。その時分は一日の日当が三十五銭か四十銭でした。当時、米一升分の日給でした。それでも自分で働いたお金だと思ひ、苦しいこともありませんでした。

また、楽しいこともたくさんありました。庄瀬の本村に生まれた私は、八月の盆踊りが楽しみでした。町の四つ角で、お寺の前で、やぐらが立ち、太鼓の音に合わせて若い男女、年寄りや子供たちが和気あいあいに夜の更けるのも忘れて踊りまくったことが今でも懐かしく思い出されます。  
昭和十八年、県外に嫁ぎました。それから戦争の始まりとともに苦勞しました。今では長男夫婦と孫二人に囲まれ、幸せな日を送っています。

## 激動の時代を見つめて

懐かし思ふ田の数々



人生五十年といわれた時代もいつの間にか人生八十年時代となり、一般に長生きする昨今であります。おかげさまで長生きさせてもらった一員に加わりました。

過去を振り返ると、激動の時代を見てきました。白根郷の田未整理地整理組合が設立され、道水路が一新。町村合併。その後戦争が始まり、全国一九〇となつて若い者は軍隊に、残る者は

戦後の守りとして。増産だ、増産だと頑張り、取れた食糧は全量供出(裸供出)。農家でさえ配給を受けた時代もありました。その後終戦。増産運動も次第に薄れて米が過剰になり、現代では、やれ休耕だ、転作だとなつて戸惑っている昨今です。また、農地も二度目の大規模整備工事が行われて立派に完成し、

現在若い者は田巡りから水管理などの農作業がバイクや自動車のできるようになりました。また、裏の両郡橋も昭和九年に木橋から永久橋になりました。が老朽化し、新しい橋に架け替えるとか。おかげさまで健康に恵まれ、入院生活を送ることがなかったことに、自分ながら幸せを感じています。

# 市民文芸

## 俳句

苗売りの話上手にまた駒む  
振って買ふ土産の鈴や春の風  
代わいて我が影写り星写り  
村走るあらぬ噂や山笑ふ  
いつも買う米屋の軒に燕来る  
川渡る蝶にも道のある如し  
田植機の見守る畦の人  
大風と書かれしチラシ届きけり  
祝ひごと重なり牡丹咲きにけり  
灰白き夜明の藤や庫裏の裏  
雨あがりルビーの如き梅の露  
川柳

五十嵐寛吾  
内山 京子  
安沢 飛浪  
猪股 南魚  
古川 綾  
堀内ナナ子  
細貝 漢子  
小林 すみ  
小林 光子  
豊木サグ子  
(以上大風会)  
波辺 勤  
玉木 長吉

## 川柳

また葉忘れています回復期  
天の慈悲地の慈悲受けている青田  
ほほずりを孫が嫌がる無精髭  
余命の水くれる旅行にまた出かけ  
木漏れ日に神はおわすか山の径  
よたよたになっても腰を鳴られる  
徳シヨンの風は吹かない裏通り  
保健会集まる顔は小麦色  
姐の鯉が睨んだ出刃の錆  
一人旅心にけじめつけたくて  
ほんとかなガマの油のその効き目  
嫁不足知らず乱舞の蝶トンボ  
儉約家ケチも美德と義理を欠き  
十の指十の音符で喋る手話  
日本語がやがてハワイを乗っ取る気  
昭和史を生きて六十路の坂を越え  
酒蔵に残した杜氏の国訛り  
少女期の肌がほんのり人を恋う

高橋祐四雄  
竹石 甚五  
田中 成子  
田村 恒夫  
時田 良子  
中村 尚治  
西条 ムラ  
早川 英男  
山岡 フミ  
本間 雪江  
吉川 彰  
米野 光雄  
荒木 イマ  
今井 七郎  
織田 セツ

## 短歌

市制三十祝う白根の空晴れて  
文化の殿堂田園に建つ  
たらねの母逝きませし年となり  
胸に合掌吾は生きなむ  
正しくも正しからざる今の世に  
正しく生きる日びのくるしき

中村 京  
小出 上しの  
小出 熊四郎